



中部ESD拠点 (RCE Chubu)



• 中部ESD拠点の概要

- 目的: 地域の持続可能な発展を妨げる自然・経済・社会の諸課題を明らかにし、それらの解決に向けた人材を育成するためのネットワークの構築
- 対象地域: 伊勢・三河湾流域圏(愛知県・岐阜県・三重県)
- 参加団体: 産官学民の80団体
- 特徴: 流域圏を単位とした地域のESD・SDGs活動

• 2022年度の主な事業(活動報告)

- 中部サステナ政策塾(～30代の若者を対象とした広義のポリシーメーカー育成)
- SDGs達成に向けた「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」(生物文化多様性保全を目的とした活動〔トヨタ環境活動助成プログラム〕)

• 2023年度の主な事業(計画)

- 中部サステナ政策塾
- いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト
- 日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト



2022年度の主な事業（活動報告）－ 詳細

中部サステナ政策塾

- － 事業: 若者を対象とした広義のポリシーメーカー育成事業(2022年度は第7期)
- － 講座: 10回の講座実施(座学、フィールドワーク、成果発表)
- － 座学: 講師は市長、元知事、NPOリーダー、建築家など
- － フィールドワーク: 毎年、伊勢三河湾流域圏の主要河川流域で実施(2022年度は三重県の櫛田川流域圏)
- － グループ課題: 自治体首長を想定したマニフェストづくり(①流域選び、②自治体選び(複数可)、③地域課題の抽出、④ 解決策の考察、⑤政策立案(流域全体の持続可能性考慮))

SDGs達成に向けた「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」

- － 事業: 生物文化多様性保全を目的とした活動
- － 助成: トヨタ自動車株式会社(トヨタ環境活動助成プログラム)
- － 伊勢三河湾流域圏主要河川×上流・中流・下流、36地域の祭・生物データベース構築
- － ワークショップの開催(同流域圏内で10回開催)

2023年度の主な事業(計画) - 詳細

中部サステナ政策塾

- 事業:若者を対象とした広義のポリシーメーカー育成事業(2023年度は第8期)
- 講座:短期集中型の開催を想定、交流促進の新手法検討

SDGs達成に向けた「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」

- 事業:生物文化多様性保全を目的とした活動
- 助成:某テレビ局との協働を検討
- 他地域との協働や拡充を検討

「いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話」プロジェクトの推進

- 2025年大阪・関西博覧会をめざす3年プロジェクト
- 2022年度:愛知開催、2023年度:大阪開催、2024年度:東京開催、2025年度:大阪・関西万博開催
- RCEネットワーク内での国際的な対話活動を検討



RCEの主な成果と課題

成果

- 中部ESD拠点協議会のネットワーク構築(約80団体:教育機関、NPO、行政機関、企業などが加盟)
- 伊勢・三河湾流域圏の包括的課題理解と解決に向けた連携実現(流域圏講座100回)
- 中部サステナ政策塾の成果:中部サステナ政策塾のべ約200名の卒業生
- 2010年:生物多様性条約第10回締約国会議および2014年:ESDユネスコ世界会議で開催地実行委員会に参画・貢献
- 2019年以降、「SDGs AICHI EXPO」実行委員会に参画・貢献
- ESDユネスコ世界会議以降、伝統知ESDを推進(日本の祭りと生物多様性保全プロジェクトに発展)

課題

- 事務局維持・資金確保・人的可負担
- ESDとSDGsの知名度格差
- 世代間対話
- 中部サステナ政策塾等の活動の膠着化、停滞化



図1 伊勢・三河湾に注ぐ主要河川流域
国土数値情報「流域界・非集水域第1.1版」より作成

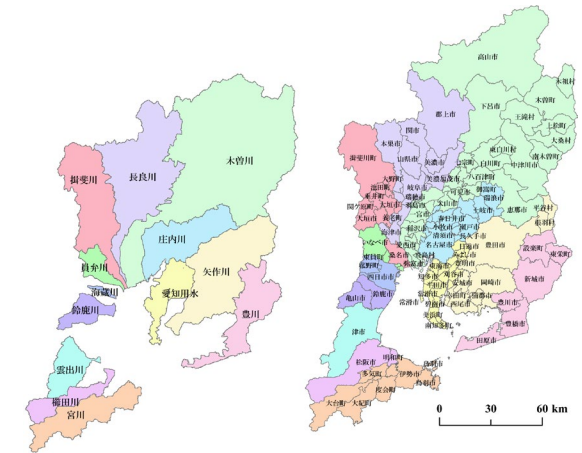


図2 流域圏自治体

RCEの活動事例

• 背景・目的

- 2014年ESDユネスコ世界会議の「あいち・なごや宣言」に伝統知をもちいたESDの重要性が明示
- 生物多様性保全活動の難しさ
- 文化多様性と生物文化多様性の同時保全(生物文化多様性)概念の登場

• 概要

- 日本の伝統的な祭り(祭礼)に登場する生物(植物・動物・儀礼食など)をとりあげて、人と自然との共生の知恵を学習
- 同時に、近代化とともに変化した自然環境や、そのことによって引き起こされる新たな課題を学ぶ
- 伝統知と未来の社会づくりとの結節点を探り、課題解決の担い手を育成

• 成果

- 伊勢三河湾流域圏主要河川×上流・中流・下流、36地域の祭・生物データベース構築
- ワークショップの開催(同流域圏内で10回開催)

